

第6回 町田市下水道事業審議会 議事要旨

日 時：2025年9月25日（木）10：00～11：35

場 所：成瀬クリーンセンター 3階 大会議室

出席者：委 員 長岡 委員（会長）

大久保 委員、鶴川 委員、内藤 委員、若林 委員、入山 委員、
勝山 委員、神保 委員

事務局 西澤（下水道部長）

高田（下水道経営総務課長）、原田（下水道整備課長）、
西澤（下水道管理課長）、松井（水再生センター所長）、
布施（水再生センター担当課長）、小林（水再生センター担当課長）

下水道経営総務課 金子、西山、古賀、能美

谷、熊谷、中島、北本

下水道整備課 荒木、北原、村上、浅場、田中、石渡

下水道管理課 大植、鈴木、大森、阿部

水再生センター 井上（政）、村野、宮川、田中（功）、湯田、田邊
木我、宮崎、宮田、野村、中村、齊藤

傍聴者： 0名

次 第：（1）開会

（2）議案審議

【議案第1号】「未来につなぐ下水道事業プラン」（町田市下水道事業経営戦略）の改定について

① 投資・財政計画の作成について

- ・第5回審議会ご意見等に対する市の考え方（資料2-1）
- ・投資・財政計画（第4次案）策定に向けた検討状況（資料2-2）

② 下水道使用料改定の方向性について

- ・第5回審議会ご意見等に対する市の考え方（資料3-1）
- ・下水道使用料改定シミュレーション（資料3-2）

③ 経営戦略改定原稿について

- ・経営戦略原稿案第5・6章（資料4-1）
- ・経営戦略原稿案への指摘・修正箇所（第5回審議会後）（資料4-2）

（3）その他

参考資料：本日の審議のポイント（資料1）

当日配布：第6回町田市下水道事業審議会 次第

下水道事業審議会 委員名簿

町田市下水道事業審議会 資料一覧

(1)【次第1】開会

事務局から会議の成立を報告するとともに、本審議会の進め方について説明を行った。

(2)【次第2】議案審議

資料2-1、資料2-2について説明を行った。

■主な質疑応答・意見等

- 資料2-2の2ページ目「不用額等による回復」に関して、予算の執行額に応じて次年度予算が減らされてしまう危険性はないのか。
⇒前年度の決算額は重要なポイントではあるが、経営戦略改定版にある計画を第一優先に予算編成を行っていく。

- 資料2-2の2ページ目「不用額等による回復」の調整額「2.7億円」はどのように算出しているのか。直近の傾向として、額が減っているということはないか。具体的な説明があった方が市民にとって分かりやすいと思う。
⇒過去の実績を平均した額が「2.7億円」である。年度によりばらつきはあるが、現在のところ「2.7億円」よりも減ることはない。

- 資料2-1の右上の図にある「補填財源」と下の表の中にある「補填財源余剰額(L)」は同一か。
⇒図の「補填財源」は「補填財源充当可能額(K)」にあたる。「補填財源余剰額(L)」は図中に記載はない。「補填財源充当可能額(K)」で充当し、余った額が「補填財源余剰額(L)」となる。

- 資料2-2の1ページ目の「(3)現金残高10億円以上を維持」について、「現金残高10から20億円程度を維持することが望ましいと考える」の根拠など、より具体的に記載した方が市民の理解が深まるのではないか。
⇒30億円程度の企業債償還への備えが維持すべき根拠である。償還時期は借入先により異なるため、年度末の段階で現金残高10から20億円程度維持する必要がある。記載方法については検討する。

- 汚水処理原価160円のうち、固定費の割合は88パーセントの約140円となる。一方で、利用者の約75パーセントを占める少量使用者の使用料単価が固定費を下回ることにについて、収支が適合するか精査していただきたい。
⇒使用料改定シミュレーションソフトを活用し、収支について再確認する。
⇒(追加意見)汚水処理原価の160円は平均値であるため、固定費と変動費に分けて、変動費が少しずつ上がっていくようなグラフになるのではないか。
⇒示し方について検討する。

続いて、資料3-2について説明を行った。

■主な質疑応答・意見等

- CASE 8は、基本使用料が現行より1%落ちている。現行より上げる方が良いのではないか。

⇒基本使用料を750円に切り上げると現行を少し上回る程度の割合になる。検討の参考にしたい。

- CASE 8はバランスがとれているが、他のCASEと比較して大学・百貨店の改定率が大きい。大口使用者に対してCASE 6やCASE 7よりも厳しくなっているということか。

⇒町田市においては、他市と比較して少量使用者の負担がかなり重くなることが見込まれるため、CASE 8は大口使用者の負担を若干重めにして調整している。

- 町田市として大口使用者の下水道使用料を抑えるための政策的配慮はあるか。

⇒大口使用者が経営上重要な要素であると捉え、他市との比較を重視するとともに基本使用料の割合や逡増度を考慮した。

- 使用水量別使用料において、8立方メートルでは税込990円となり、「1,000円の壁」が意識されており、説得力がある。

→続いて、資料4-1について説明を行った。

■主な質疑応答・意見等

- 「浸水対策」について、町田市は集中豪雨に備え、どのような対策を講じているか。

⇒町田市は1時間雨量50ミリメートルへの対応を目指して取り組んでいる。実際の浸水履歴と浸水シミュレーションでの解析結果の両方を踏まえた対策を行うとともに、現場の状況をこまめに確認しながら浸水被害の軽減に努めていく。

⇒（追加質問）急な集中豪雨を心配している市民もいると思う。浸水対策を進めていることについて記載があると良いと思う。

⇒検討する。

- 八潮市の道路陥没事故の原因が硫化水素によって腐食した下水道管に起因するものであることが公表され、国土交通省から管路の緊急点検の実施や管路の二条化の検討について話が出ているが、町田市の対応状況はどうか。

⇒八潮市の道路陥没事故を受け2025年2月に緊急点検を、また国土交通省による「全国特別重点調査」の指示を受け、管路の点検・調査を行った。汚水管の点検・調査は完了し、全体的に腐食や重大な強度不足はなく、安全な状態であることを確認している。今後も国土交通省の指示に沿って対応していく。

- 単語の後ろにある「*」が、掲載箇所によってサイズが異なっている。意味は異なるもの

か。

⇒「*」は用語集で解説をつける単語である。文字のサイズ等は最終段階で整理する。
⇒（追加意見）同じ単語が2回目に出てくる際にも、「*」を付けておいた方が良いと思う。検討いただきたい。

●経営戦略改定版は計画期間が2035年度までであるので、環境や新たなエネルギーなど、検討を進める内容について記載を増やした方が良い。
⇒実現可能性も踏まえ、経営戦略に反映できる内容について検討する。

●文字が小さく読みにくい箇所がある。読みやすいように工夫をしていただきたい。
⇒対応する。

●「②広報活動の取組み」に関連して、新聞を購読していない世帯向けにも、「まちだ下水道通信」に関する広報活動は行っているか。また、下水処理場の施設見学は年間どのくらいの件数か。改定後の経営戦略においては、掲載写真についても新しいものに変えた方が良い。
⇒「まちだ下水道通信」は、LINEを活用した広報課の配信サービスへ記事を提供しており、登録者へ配信している。また、WEBから多言語で閲覧できる「カタログポケット」へも掲載している。今後も様々な媒体を活用し、展開していきたい。
⇒処理場見学は、各センターで年間10件から20件程度行っている。通常、見学の様子を写真に収めることはしていないため、今後は意識して取り組みたい。

●広報活動に関して、町田市でのデジタル化が進んだと理解している。各部署と連携した積極的な広報活動を検討していただきたい。
⇒デジタルサイネージなど、各部署の持つ媒体を活用して情報発信していきたい。

●資料4-1の1ページ目のリード文をより具体的に記載した方が市民にとって分かりやすいものになると思う。7ページ目・8ページ目のフロー図に、耐用年数を超えた施設についてもきちんと調査し優先度をつけて必要な対策を行っていることを示す必要があるのではないか。
⇒検討する。

(3)【次第3】その他

事務局から、事務連絡を行った。

閉 会